

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	乙 第 1215 号	氏 名	三 代 澤 幸 秀
論文審査担当者	主 査 中沢 洋三 副 査 杠 俊介 ・ 竹下 敏一		
<p>(論文審査の結果の要旨)</p> <p>新規バイオマーカーであるプレセプシン（可溶性 CD14 サブタイプ）は、CRP やプロカルシトニンなどの既存の炎症マーカーと比較して、感染症に特異的に反応するとされ、成人領域では有用性が多数報告されているが新生児領域での検討は少ない。そこで我々は生後 30 日以内に発症した敗血症群 13 例と、コントロール群として早産児 18 例を前方視的に比較検討した。加えて、非敗血症正期産児群として、何らかの早発型敗血症を疑わせる臨床的所見を有する正期産の新生児 35 例において、生後 3 日間、白血球、CRP、プレセプシンの推移を評価した。</p> <p>その結果以下の成績を得た</p> <p>血中のプレセプシン値は敗血症群ではコントロール群より有意に高かった (<math>p &lt; 0.001</math>)。AUC は 0.868 (95%信頼区間 0.71-1.00)。カットオフ値 795pg/ml で感度 85%、特異度 89%、陽性的中率 85%、陰性的中率 89%であった。非敗血症正期産児群では白血球、CRP 群では日齢毎に変動が見られたが、プレセプシンは安定して低値を示した。</p> <p>以上より、プレセプシンは敗血症を既存のマーカーに劣らない精度で診断でき、非敗血症の症例をより鋭敏に鑑別できると考えられた。したがって主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			